

八木風輝

1. 事業実施の目的

博士論文執筆のための調査・研究活動

2. 実施場所

モンゴル国ウランバートル

同国バヤンウルギー県

3. 実施期日

平成 31 年 2 月 24 日（日）から 3 月 10 日（日）

4. 成果報告

●事業の概要

本事業では、モンゴル国首都ウランバートルとバヤンウルギー県において、計 2 週間、以下の 2 点の調査と交渉を行った。

1 点目は、社会主義期モンゴル国のカザフ音楽の演奏活動において、ラジオ放送が果たした役割を解明する調査である。社会主義を経てきた地域におけるラジオ放送は、社会主義思想の伝達や、特定の民族の芸能の形成に影響を与えた。当時のソ連邦はプロパガンダとして、芸能や声を伝達する手段をとった。これは、文字を理解できなかった当時の民衆への宣伝として期待された。その一方で、社会主義圏のラジオ放送は、国内の人々への社会主義思想の宣伝のみならず、国際関係を重視した対外的な側面を持ってきた点に、本調査では注目する。

モンゴル国では、1934 年にソ連の支援を受けてラジオ放送が開始されて以降、1940 年代にはモンゴル国内でカザフ語によるラジオ放送が開始した。カザフ語によるラジオ放送は、1950 年代以降拡大したものの、その全てが首都ウランバートルのラジオ局からの発信であった。

しかし、1950 年代末から、中国とソ連のイデオロギーの対立(中ソ対立)が発生した。その際、中国・新疆ウイグル自治区に対する宣伝と、新疆ウイグル自治区で流されたラジオ放送を傍受するため、1965 年にウランバートルに次いでバヤンウルギー県ラジオ局が設立された。カザフ人が人口の 9 割を占めるバヤンウルギー県に、ラジオ放送が行われる土壌が誕生した。その後、バヤンウルギー県のカザフ人に向けたカザフ語のラジオ放送が行われた。この番組で主に用いられたのは、カザフスタンから持ち込まれたカザフ音楽や、バヤンウルギー県ラジオ局が録音した音楽であった。これらを録音した媒体である磁気テープは、主にコメコン(ソ連圏の経済相互援助会議)中の流通に基づき、バヤンウルギー県に持ち込まれていた。

これまで申請者は、バヤンウルギー県にあるラジオ局に参加し、当ラジオ局の設立等に係る歴史的経緯を明らかにしてきた(現在国際誌への論文執筆中)。しかし、ウランバートルの

ラジオ局とバヤンウルギー県ラジオ局間で行われた、社会主義期の音楽の録音等の指示や、ラジオ局間の相互の番組の内容は解明できていない。

そこで、本調査では、ウランバートルとバヤンウルギー県で以下の調査を行う。ウランバートルでは、モンゴル国営地方ラジオ局の関係者らへ聞き取り調査と、ラジオ局が出版・録音した一次資料の収集を行った。また、バヤンウルギー県では、バヤンウルギー県ラジオ局の音源を保管している音響アーカイブズ「アルタンコル」にて音源のデジタル化の補助を行い、社会主義期の音楽活動の詳細を解明するためのデータを収集すると同時に、「アルタンコル」の活動に関与したカザフ人への聞き取りを行った。

2点目に、2019年度モンゴル国で行う長期調査の交渉を、受け入れ機関と行った。2019年度の9月以降、松下幸之助記念財団国際フェロシップによるモンゴル留学(1年間)が決定しており、その留学の受け入れをモンゴル国科学アカデミー歴史考古学研究所に依頼する。その留学に係る交渉を受け入れ先の研究所と行った。

●本事業の実施によって得られた成果

本事業の実施による成果は、以下の2点である。

1点目は、モンゴル国でのカザフ語によるラジオ番組の所在を把握できた点である。この点に関して、ウランバートルにある国営ラジオ・テレビ局での交渉と調査を行った。1960年代に中国・新疆ウイグル自治区に放送していたカザフ語のラジオ放送の磁気テープが局内のアーカイブズに存在していることを確認し、その聴取のための手続きの手順に関しても教授を受けた。2019年9月以降にカザフ語の磁気テープの内容は精査できる予定である。

また、1970年代から国営ラジオ・テレビ局に所属していたカザフ人ラジオ局員らにインタビューを行ったことで、社会主義期のウランバートルとバヤンウルギー県のラジオ局間を結ぶ人的・物的なネットワークの一端を解明することが可能となった。

2点目に、バヤンウルギー県のラジオ局に収録されている音源を収集し、2018年夏までにデジタル化できなかったカザフ語の音源を約100曲ほど収集した。これらの結果から、先行研究が明らかにしてこなかった社会主義期のカザフ音楽の様態を、モンゴル国内で行われるラジオ放送から解明する一つの試みとして位置づけることが可能である。本調査で収集したデータは、現在執筆している国際誌(執筆言語：英語)に掲載する論文の直接的な裏付けとなるものである。また、博士論文の2章と3章(社会主義期のモンゴル国のカザフ音楽の動態)の成果の一部として位置づけることが可能となった。

3点目に、モンゴル国科学アカデミーへの1年間の留学の交渉であるが、その留学の内容が先方の所長に承諾され、2019年4月以降順次手続きを行っていくこととなった。

●本事業について

本事業によって、博士論文の中心を占める本調査を遂行することが可能となりました。本事業による派遣を許可して頂いた先生方と本事業を行ってくださる専攻の担当者の皆様に

感謝するとともに、ここで得た成果を調査地を含む社会に還元できるように努めたいと思います。本当にありがとうございました。